

エミュー戦争

オーストラリアにヨーロッパからの移民が行われてまもなく、エミューとカンガルーは農民から害獣として嫌われるようになった。

それで彼らの駆除積極的に大規模に行われた。

彼らの長い頸に懸賞金が掛けられるほどなのである。

20世紀になる前の頃、クイーンズランド州では、2年間に12万1768羽のエミューが殺され、10万9345個の卵が取られた、これほどまでにしてもエミューの被害がなくならなかったために、何人かの有力な農民が政府を説き伏せて、ついにエミュー捕獲大作戦が実施された。

1932年11月2日、信じられないことだが、オーストラリアの砲兵隊1個中隊がエミューに向けて砲撃に出たのである、密集したところへ砲撃を打ち込んだのだ。

だがエミューは数羽ずつの群れに散らばってゲリラ戦に出たため、砲撃の効果は今一つであった。

軍はこの失敗に気付く、作戦を変えた、待ち伏せ作戦である。隠れて銃を構える兵隊の前に、別の部隊がエミューを追い込んだのだ、エミューの群れが射程内に入ったところを一斉に射撃した、たちまち十数羽が倒された、ところが大混乱に陥ったエミューの群れは暴走し、銃の向けようのないほどの騒ぎになってしまい、この作戦も失敗したのである。

その後、先頭は泥沼状態になり、1ヶ月が経過した、そこでようやく停戦となった。この戦いがあまりに無謀で、馬鹿げており、国費の無駄遣いであることに気付いたに違いない。

愚かだった政府はエミュー捕殺の申請を出した農民の有力者に対して請求書を出した。

「1. 軍の食料に要した費用 9ポンド
1. 軍の移動に要した費用 10ポンド
1. 輸送車の破壊、修理等に 5ポンド
しめて24ポンドを要求する。」

まじめに、本気でエミューと戦争をしたのである。オーストラリアではエミューとカンガルーは紋章にまで使われている代表的な動物である、それなのに両方とも有害鳥獣とされたのは、まさに皮肉である。